

令和4年(2022年)5月12日

西宮市議会議長 草加 智清 様

## 建設常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和4年(2022年)4月20日(水)  
午後1時30分から午後5時05分まで

■視察委員 委員長 篠原 正 寛  
副委員長 一色 風 子  
委 員 坂本 龍 佑  
たかの し ん  
〃 花岡 ゆたか  
〃 福井 浄  
〃 松山 かつのり  
\*やの 正史委員は所用のため欠席

■視察先 ①丸山浄水場  
西宮市山口町下山口 1585-42  
②丸山貯水池  
兵庫県西宮市山口町金仙寺  
③鳴尾浄水場  
西宮市戸崎町 1-84

■視察事項 自己水源の供給施設について

■視察先対応者 水道施設部長 船本 和弘  
施設管理課長 小西 幸雄  
施設管理課担当課長 太田 陽一郎  
浄水課長 大井 啓司  
北部水道事業所係長 宮邊 桂

### ■視察概要

委員会発足時に合意された本年度委員会の施策研究テーマ5項目のうちのひとつである「本市水道事業の代表的課題と将来像について」を研究・協議し、大詰めを迎えた今般、代表的課題とした琵琶湖水系、県水各水源の汚染や枯渇、中長期化する停電が発

生した場合の対応、すなわち何が起こっても西宮市民に最低限、必要な水を安全に届けられるための具体的手段を考えるに及んで、平素の量的・給水戸数的な少なさと裏腹に本市の意思で100%活用でき、また日々の必要量を確保できる水、本市自己水源の重要性について一同、あらためてその重要性を認識したところである。

ただ、平素の利用量が少ない分、浄水効率は悪く単価の高い水になっており、また対象各施設の老朽化が進行し、施設・設備の更新が企図されているとのこと、給水人口が減少せざるを得ない将来、いわゆる「水あまり」が懸念される今後にあつて、水道供給の安全保障としてどこまで対応することができるのか、あるいはするべきなのか。これらを考える上で、現状の見聞は不可欠と判断し、両施設を訪問したものである。

## ■意見・感想

### ①丸山浄水場

### ②丸山貯水池

浄水の過程、貯水の現状について説明を受け、見聞した。

取水から浄水・配水までの設備においては、それなりに老朽化が見られるがメンテナンスがされているので、差しあたつての問題はない印象である。ただ、建物や什器備品類はずいぶん老朽化しており、破損している古い什器についてはきちんと予算を取り、職員の働く環境を改善されてはどうかと思う。

丸山浄水場は自己水ではあるが、河川水を貯水して使う、すなわち表層水式である。よつて渇水や汚染などのリスクもあり、配水先がもっとも少ない関係上、突出した浄水単価となつてしまつている。自己水源を確保することの大切さは前述の通りであるが、琵琶湖・淀川水系ではない兵庫県営水道の水源が遠からず複数化され、リスクが下がるので北部の何があつても途切れぬ水道供給を守る、という前提で、その在り方については幅広く議論が必要なところである。

### ③鳴尾浄水場

同施設は地下水を汲み上げる非表層水式であり、様々なリスクに強く、取水できる量も災害その他、大規模断水時に最低必要な水量を確保しているため、たいへん貴重な存在である。ただ市内への配水割合は4.5%と低く、他の広域水道が契約水量制であるためか、能力に対して十分な活用量が確保されていないという課題もある。

コンパクトに納められた施設の中に、驚くほどの取水・浄水能力があるのだが、今後の水あまり傾向において、これらをどう維持していけるのかが課題になるとの意を強くした。もう一つの自己水源、鯨池浄水場とどのように棲み分け、効率的でなお、最悪にも対応できる能力を維持するかという高度な課題に答えを出して行かねばならないが、地下水は表層水に比べて考えられるリスクは低い反面、自然・人為的を問わず毒物の混入や突然の枯渇が発生すると回復不可能な場合もあるので、平素の水利用をうまく効率的に考えながら地下水源を複数保持しておくことの重要性についても真摯に検討されたい。

■視察風景  
(丸山浄水場)



(丸山貯水池)



(鳴尾浄水場)





以上